

テーマ展「46 歳、旅する芭蕉さん」開催中です。



1644年、三重県伊賀の地に生まれ、俳諧に出会い、各地を旅して人の心をとらえる名作を生み出した松尾芭蕉。旅を人生にたとえ、自然や季節のうつろいに心を寄せた芭蕉の姿は、現代を生きる私たちに自然や生命への畏敬の念に気づかせてくれます。

本展では、出会いと別れを繰り返し、旅し続けた芭蕉にとっての「人」や「山、川、陸、海」の織りなす自然の美を豊かに表現し、旅に身を委ねる46歳の芭蕉の姿をⅢ期にわたって紹介します。



風流のはじめ館

2024
第22号
5月号

<https://s-furyu.jp/>



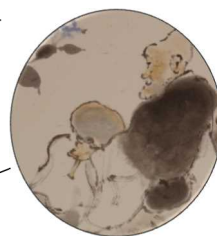
残された人生は、江戸にいて古くからの友人や門人たちに支えられ、安楽な生活を送るのでなく、漂泊の人生を送りたい！

2024年は、芭蕉生誕380年の記念の年。

歳月は人を待たない、だからこそ、かけがえない時間を大切に生きよう。人生は思うようにならないが、その現実を静かに受け止めて、時折めぐってくる幸せを楽しもう！

人生は旅である。

多くの人が先生を慕って私の庵を訪ねてきましたよ。
by 可伸



【開催期間】4月26日(金)～9月29日(日) ー入館無料ー



キセルでポーズ



芭蕉さんコスプレコーナー

栃木県の仲良しご夫婦や小学生がタイムスリップ！

ミニ芭蕉さん決まってるね！



【予習講座】

福島を旅した芭蕉さんのこと

イベント

はじめての芭蕉さん

6/12(水)10:00-11:30

【バスツアー】

おくのほそ道を楽しむ

6/29(土)9:00-15:30

乙字ヶ滝 守山田村神社、観世寺、高林寺など巡ります。

定員20名

芭蕉さんのことを知る講座です。

申込〆切
6/2(日)
抽選



墨彩画「旅立」米倉兌



「遊女」米倉兌



「里の童」米倉兌



「一期一会」米倉兌



「夢」太田良平



「旅立ち」太田良平

展示品の紹介

Ⅰ期
(4/26-6/17)

行春や鳥啼魚の目は泪
これを矢立の初として、行道なほ進まず。人々は途中に立ち並び、後影の見ゆるまではと、見送るべし。

『おくのほそ道』

奥の細道

芭蕉はほんとうに旅の好きな人だ。また人との出会いを殊の外大切に思う人である。山川草木すべて芭蕉の心を打ち、うったえないものはない。馬方や渡し守にも、あたたかい目をもって接し、無邪気な里の子にもやさしい。

江戸から平泉を経て堺田までは、名文が並ぶのにくらべ、尾花沢から羽越に入ると、文より名句が続く。風光よりも、いかに人々との出会いをなつかしき、楽しんでいたことか。

まことに旅は、人ばかりとは限らず、鳥獣水魚さえも情ある出会いこそ最上で、さもない溝川も美しく、忘れがたいものとなる。

「おくの細道 米倉兌 墨彩展」
序文より抜粋



俳句ポスト表彰式を開催しました。

令和5年度



牡丹賞

塩田 和子

この路地にかつてだんご屋牡丹咲く

赤松賞

関根 邦洋

内側へ子も輪を作る盆踊

翡翠賞

三瓶 紀子

すれちがふ農夫野焼の臭ひかな

ぼたん賞

中島 誠人

ナイスボール兄に言われた冬うらら

あかまつ賞

矢部 愛音

やえざくら昇降口を照らしてる

かわせみ賞

熊耳 功成

のぼりぼうなつのそらまでのぼりたい

等躬賞

須賀川市立第一小学校

令和5年度
受賞作品

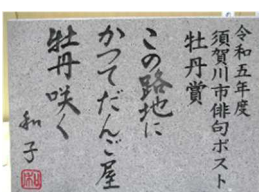
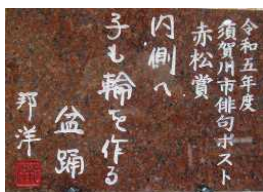
各作品の作者直筆の短冊をはじめ館に展示しています

牡丹賞

鑑賞 (選者 深谷栄子)

俳句は作者の手を離れて一人歩きをすると言われています。掲句を読んだ時、読者の脳裏にはそれぞれの路地、それぞれのかつての団子屋が思い浮かびます。また、読者のその時の心情によっても、俳句から受ける感じが違っていることでしょう。

移りゆく世、変わらずに美しく咲く牡丹、そして懐かしい路地。俳句は作者の意図を超え、読み手の中で動き出すのです。そういった意味でも、読者に多くの事を想像させ、郷愁を誘う掲句は見事というべきでしょう。



への盾の江持石、赤松・翡翠賞：御影石



はじめ館の一こま

四季の



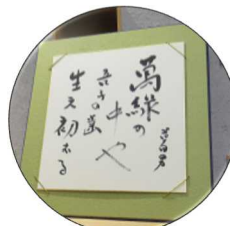
茶会での設え



牡丹が咲きました。



5月の絵てがみ



5月の俳句

講座のお知らせ

すかがわ大人塾

第1回
第2回

募集中



「やさしい
はじめての俳句教室」

日時 7/5(金)・12(金)
講師 佐藤秀治氏



「花を知る 草を知る」

日時 6/8(土)9:30-11:30
場所 翠ヶ丘公園
講師 安藤勇司氏

言の葉



つゆくさいろ
露草色

藤色
ふじいろ

藤は花が風に散るさまを表す「風散」に由来します。平安貴族の代表ともいえる藤原氏の姓には「藤」の字が入り、家紋も「しだれ藤」です。

「青花」「月草」「うつくしばな」などの異名をもつツユクサの花のようなあざやかな色です。古代では、この花に紙や布を摺りつけ、染料としていました。

お知らせ

◆ 俳句ポスト 投句募集

第一回投句×切
八月二十七日(火)

◆ 本の貸出しできます。

芭蕉関連
俳句 句集
文学 郷土
歴史と文化
日本の暮らし
絵本など

3冊まで
14日以内
借りること可。

